

平成18年(2006年)3月21日火曜日 奈良新聞

JICAボランティア出発前、大和高田市長を表敬訪問

景観保存に意気込み

2人が派遣のタイへ
大和高田市と市長と歓談



吉田誠克市長(左)と歓談する上嶋晴久さん(右)と笠本由香理さん(20日、大和高田市役所)

国際協力機構からタイへ(四七)大和高田市内本町(四七)と青年海外協力隊員の笠本由香理さん(三三)同市のボランティアの上嶋晴久さん

二人が二十日、大和高田市役所を訪れ、吉田誠克市長に出発の報告を行った。

上嶋さんは一級建築士で地元の大和高田市や奈良市でまちづくり団体に参加。古都・奈良の町並み保全活動で得た経験を生かし、タイ北部のチェンマイ県土木・都市計画事務所や都市計画や歴史的景観の保全活動の助言を行う。

また、笠本さんは同国北部のピサヌローク県の小中一貫校に派遣。日本語教師として、日本文化の紹介や日本語学習を行う現地教師の支援を行う。派遣期間は共に三十日から二年間。

吉田市長と歓談した上嶋さんは「奈良と同様にチェンマイは古都で、今、景観保存をやっておかないと手遅れになる。二年は短いですが、後続の人たちにうまくバトンタッチできれば」と意気込みを語った。

吉田市長は「二人は大和高田市にとっても貴重な人材。戻られたら海外での経験を生かし、市の発展に協力してほしいと期待した。」